



SDGs for School
produced by Think the Earth



23



○るーな
・新潟県
・中学3年生

私が体験した「新しい景色」は二つです。一つ目は、熱心に私たちの話を聞いてくれる参加者を見て、一人じゃないという感覚や多

みなさん、こんにちは。今回は、昨年12月27日に開催された「みらいをつくる超・文化祭」に出展したメンバーが感じた、行動したことで見えた「新しい景色」というテーマでそれぞれ寄稿してもらいました。



○はるか
・秋田県
・高校2年生

秋田に住む私にとって超・文化祭はとても新鮮で、私と同じ年またはそれ以下の学生の活躍に大変刺激を受けました。私が超・文化

くの人と一緒に活動する大切さに改めて気づいたことです。二つ目は社会の多様化です。多くの高校生が自分の「好き」「やりたい」に自信を持ち、また、みんなで認め合いながら活動しているという私の地域にはない光景に、中高生の可能性と進化した「多様性」を感じ、とても良い機会でした。この新感覚を大切に、様々な活動に挑戦していきたいです！



○みなみ
・東京都
・高校2年生

超・文化祭で、二つの「リアル」について考えました。まず、オン

祭で感じたのはいい意味で「自分もできそう」でした。これまでオンラインでしか、この連載メンバーと関わる事ができなかったため、高い目標を持つメンバー、またはこのSDGsの活動がどこか遠い存在な気がしていました。しかし、自分の興味のあることを素直に追いかければ良いのだという本当の意味でのSDGsの第一歩を知りました。自らアクションを起こす楽しさに気づいた、有意義な時間でした！





ラインではなく、対面で「リアル」に、この連載のメンバー、アクションを起こしている学生や大人に会い、会話することの大切さを実感しました。わからないことがあつたらすぐに質問でき、また、活動に関して様々なアドバイスをもらうことができ、とても有意義な時間だったので、やはり人と人の直接のやり取りはいいなと感じました。もう一つ感じたことは、問題の「リアル」をもっと見なければならぬということ。ポルネオ島やカンボジアのスタディツアーに参加した方の話を聞くと、どの、だれが、どんな問題に直面しているのかが鮮明に頭に浮かびました。私ももっと様々な経験を

をして、問題を近くで見て、どんな解決策が良いかじっくり考えながら行動を起こしていきたいくなりました。



○ののは
・東京都
・中学2年生

超・文化祭では、17個あるSDGs番号の中でそれぞれの団体がフォーカスしているターゲットがいろいろ違って興味深かったです。そして、たとえ同じ番号のターゲットに取り組んでいたとしても、対象としている人たちが違っていたりアプローチの方法が違っていたりしたことがとてもおもしろかったです。達成を目指すための道は沢山あって、それが正解というところもないし、その道を行

かないと見えてこない景色や、逆にその道では味わうことのできない景色もあるけれど、最終的にはみんな同じゴールを目指していく、これが私の見えた「新しい景色」です。



○ふるとり
・東京都
・大学2年生

当日参加することはできませんでしたが、配布資料に文章を寄せました。より一つ一つの問題に向き合ってほしいという想いを込めたもので、単純な良い悪いという二元論的な捉え方以外の視点が問題解決には必要という考えが根底にあります。私たちが抱える問題は複雑に絡まっているからです。

9 9. 産業と雇用
8 8. 公正な働き方
7 7. エネルギー
6 6. 清潔な水と衛生
5 5. ジェンダー平等
4 4. 質の高い教育
3 3. 健康と福祉
2 2. 持続可能な消費と生産
1 1. 貧困削減





今回は文章のみを通じて私の考えを伝えたのみでしたが、次の機会には参加者とともに新たな景色を見つけられたらと思います。

以下は、当日の配布資料の内容（一部改定）です。

「問題の根源を考える」
SDGsへの取り組みはその多くが複数の目標に跨っています。

それは私たちが抱える問題が他の問題と深く関連しているからです。いくつか例を挙げてみましょう。クリーンなエネルギーとして推進されている再生可能エネルギーに全置き換わったとして、今のエネルギー問題は解決するのでしょうか？ 発電時のCO2排出量の問題は解決できますが、答えはNOで

す。現在の再生可能エネルギーはSDGsが掲げる安定的なエネルギーとは言えず、現代社会の根幹をなす電力が安定しなければ8番、9番の目標に掲げられる経済発展や技術革新も不可能です。さらに太陽光パネル設置のために木を伐採するといった本末転倒な事態も起こってしまっています。

（一部省略）

私たちは分かりやすい解決を望みます。女性の生理に関する問題で言えば、使い捨ての生理用品を送り続けるだけでも一応の解決にはなりません。ですがそれは本当の意味での解決でしょうか？ 貧困、教育、社会構造など多くの要因が生み出した問題の一つが生理の問題であって、ただ物を送り

続けるだけでは問題を生み出す構造自体は変わりません。布ナプキンも使い捨てに比べて継続性のある取り組みではありませんが、それだけでは根本的な解決に時間がかかることを理解したうえで取り組まなければなりません。問題の根本には何かあるのかを理解しなければ、真の問題解決にはならないのです。SDGsや布ナプキンプロジェクト、そして私たちが執筆している「何が問題の根源なのか？」という問いを持つきっかけにしたいだけです。

★第4回みらいをつくる超・文化祭（当日のレポートは2月頃公開予定）


